

# 環境科学アドバイザー養成講座資料

## 第六教科資料

### 【生命の仕組みと健康④】

- 体温と生命…P2
- マイナスイオンと健康…P4
- 遠赤外線と健康…P7

#### 付随資料

- ◆ 夢の健康エネルギーをとりいれた生体活性化システム
- ◆ 人間の本質と肉体と心のしくみ
- ◆ 生体エネルギーの流れ

# ■ 体温と生命

## 体温は健康のバロメーター

よく『体温を上げれば病気は治る』と言われる。

しかし、体温を上げたから病気が治るのではなく、正しくは体内の細胞内原子の活動が安定して、内臓諸器官の機能も正常で健康な状態の時の肉体から放射されている熱エネルギーが体温として計測されるのです。

したがって、体温を上げれば病気は治ると言っているのは、健康になれば病気は治ると言っているのと変わりありません。

病院で毎日体温を計るのはその時の健康状態を確認するためです。

何故、病気になるのか？

何故、病気になって体温が下がるのか？

その事を理解することが病気の予防と改善の最善策なのです。

これまで書いてきたように、人間の肉体はその殆んどが水素や炭素や酸素といった地球の大気元素で構成されています。

銀河宇宙の回転運航によって太陽系が公転し、さらに地球が自転しています。この自転のリズムに反応して大気元素が超高速でスピンしながらエネルギーを放射し、磁気エネルギーを高めて結合して有機生命体を形勢しています。

この地球の1年間で365回転するリズムが、人間の体温の正常値である36.5度となっています。

この運航の流れより速くても遅くても、肉体のリズムは狂います。速ければ体温は上がり、遅ければ体温は下がります。

質量の軽い大気元素と極微量のミネラル元素が結合し、干渉しあって人体の中核諸器官や内臓諸器官や神経が組織され、天地自然の生命エネルギーによる超エコシステムによって活動し機能しています。

健全な状態でこれ等の全組織が活動している時、体内細胞は36.5度という体温、つまり熱エネルギーを維持して体外に放射しています。

では、如何にして低体温が起きるのか？

原因は3つあります。

1つは肉体の意識体である感情機能による原因です。

これは、精神的な刺激やショックによって人体の諸器官に影響を与え機能を停滞させるために起きる一時的な原因です。

しかし、持続すれば何等かの病気の元となります。

もう一つは、自然環境における自然生命エネルギーの低下です。

自然破壊や大気や土地、河川の汚染によって、生体電磁気エネルギーが低下するためです。

そして、3つ目は生活環境における影響です。

化学製品である新建材や無機質な新建材等の化学物質の乱用と、年々増加する電磁波環境です。

最も軽量で静かな元素である人体の構成元素は、質量の高い化学物質や電磁波によって大きく干渉されて機能障害を起こします。

自然環境のエネルギー低下や、何等かの人体における機能障害があれば体温は自動的に低下します。

さらに、これ等の3つの原因は複雑に絡みあって作用します。

つまり、自然や生活環境におけるエネルギー低下は、人間の内臓諸器官ばかりでなく、感情障害も引き起こします。

そして、感情エネルギーの低下は人体に影響を与えるといった悪循環を引き起こします。

したがって、『体温を上げれば病気は治る』と言うほど容易容ないことではありません。

しかし、自然生命エネルギーを向上させれば人体の諸器官や諸機能、そして感情面も回復して体温は人体の正常を知らせます。

つまり、最も人体に近い生活環境を改善し豊かにすることで、肉体の病気も、精神面の病気も回復するのです。

人体や生命に影響を与えている環境を放置したままで、薬や手術に頼る医療を続けても根本的な解決にはなりません。

そこで提唱するのが【環境医学】です。

つまり、生活環境を改善し生命エネルギーを向上させることで、生命力や免疫力が向上し健康回復が実現でき、しかも生命力の向上が人生も豊かにするからです。

こうした環境と健康の関連性を把握するために、幅広い事象を計測出来る磁場共鳴装置を使った【波動測定装置】による計測によって確認を行っています。

健康かどうかの体温測定と違い、積極的な健康環境と健康づくりを行っています。

# ■ マイナスイオンと健康

## 生命元素のバランスを司るマイナスイオン

マイナスイオンや遠赤外線は健康に良いと言われていました。  
しかし、マイナスイオンと健康、遠赤外線と健康の理論はあまりありません。

病気や治療の理論は山ほどありますが人間の肉体の真の仕組みや生命理論はあまりないのです。

こうした学問や理論があれば、人間の生命を理解することも病気を防ぐことも正しく改善することも可能です。

しかし、人間を創ったものが人間でないが故に、人間は一番身近な自分自身のことが何一つ分からないのです。

この生命の仕組みとはこれまでの物理学分野や化学分野や生物学分野、そして医学分野等の各一面から見のではなく、人体とはこれ等の全てを包括しています。そして、大自然や宇宙から一時も絶え間なく生命エネルギーを受けながら生かされています。

さらに、その肉体に納まり肉体と感情意識を操り人生を営む魂としての人間の実相本体があります。

これまで、肉体を構成する物質としての最小単位である元素や原子の話をしてきましたが、水素や炭素や酸素等の元素を構成するものが素粒子としての陽子や電子、中性子と呼ばれるミクロのエネルギー体でありそれらの活動現象がマイナスイオンやプラスイオンです。

つまり酸素には中性子と結合して原子核を構成する 8 個の陽イオンの陽子があり、この原子核の回りを回る陰イオンの電子があります。

この電子は自転する地球の電気エネルギーに反応して原子核の回りを回転し、このマイナスとプラスの電気反応で元素は質量を持ち原子エネルギーを造り出しています。

このエネルギーが人間の体温であり肉体を支える生体エネルギーです。

では何故、原子核の回りをマイナスの電極を持つ電子が超高速回転できるのでしょうか。

太陽の回りを地球を含む幾つもの惑星が自転し、地球の回りを月が回るように、原子核と電子の間には引き合うエネルギーが作用しています。

太陽と惑星間に働くエネルギーのことを引力と言い、原子核と電子の引き合うエネルギーを磁気エネルギーといいます。

このエネルギーは鉄やニッケル質の地殻や、二酸化ケイ素質の土や岩石の大地から出ています。

つまりミネラル質の地球が宇宙の電場を自転のすることで地球の磁性が高まるのです。

しかし、環境破壊や汚染によって地球の磁性、つまり生命をコントロールしているエネルギーが低下し、大気中の酸素ばかりでなく肉体の炭素や酸素元素内に働く磁気エネルギーも低下します。

つまり、炭素には 6 個、酸素には 8 個のマイナスイオンの電子が回転しながら 36 度 5 分と言う体温としての熱エネルギーを発生し生命を活動機能させているのです。

地球や生活環境の磁気エネルギーが低下することで、原子核と電子のエネルギーバランスが損なわれ、一つのマイナスイオンを持つ電子が離れてしまい体温が 35 度 5 分となります。

つまり、人体の膨大な細胞の活力が低下し、健康が損なわれるのです。

このため、マイナスイオンが人間の健康に関係があるということになります。

しかし、マイナスイオンが健康に良くプラスイオンが健康の敵と言うことではないのです。磁気力の低下で細胞内元素からマイナスイオンの電子が欠落してプラスイオン化することに問題があるのです。

また、海岸や滝のまわり、シャワー等はマイナスイオンが沢山あると言われるのは、大気中の元素のなかでは酸素が最も多くのマイナスイオンを持つために、二酸化水素の水分の多い場所は最もマイナスイオンが多いと言うことになりますが、決してそれが健康に良いわけではありません。

湿気が多いと言うことにもなり長時間居れば病気の原因となります。

■かつて、生体活性化住宅やシステムを取り入れたマイナスイオン測定や化学物質測定を実施したことがあります。

健康に最も関わりの深い小イオンの測定では、健康に良い森の中のイオンの数値がマイナスやプラスイオンとも 500 前後でした。

生体活性化住宅内が 400～450、一般住宅が 70～150 でした。

ところが、加湿器を始動させるとマイナスイオンとプラスイオンとも 4,000 にはね上がりました。

さらに、病院内で放射線を放射した瞬間は 25,000 にもなったのです。

つまり、放射能をだすウランは 1 個の元素の中に 92 個ものマイナスイオン、プラスイオンの電子や陽子を持つ最も質量の高い元素であるためです。

強力な熱エネルギーを出すため強力な放射線を受けると、人体は被曝して細胞内元素が急激な回転をして発熱して焼けただれます。

人間の生命は森の中と同じ波動を持っています。

マイナスイオンとプラスイオンの真実を理解することも、健康を理解する大切な事柄です。

# ■遠赤外線と健康

## 生命をコントロールする陰陽の遠赤外線エネルギー

人間の健康についての言葉の中にマイナスイオンと同様に使われる言葉が【遠赤外線】です。

その遠赤外線の対極にあるのが紫外線です。

癌などを引き起こす紫外線は別名殺人光線とも呼ばれ、健康に良い遠赤外線は育成光線とも呼ばれます。

地上の大自然の生命を育成している太陽からは赤外線や遠赤外線の生命を育成するエネルギーと同時に、殺人光線である紫外線も大量に放射されています。

では何故生命体は死滅しないのでしょうか。

それは地球を覆う大気層は大量の酸素の層でもあるためです。

特に酸素密度の高い層をオゾン層と言います。

さらに酸素質の地球からは高い磁気エネルギーが放出されています。

遠赤外線のエネルギー体である酸素で構成されるオゾン層や、地球から放出される磁気エネルギーは、太陽からの同じ波長の遠赤外線エネルギーは吸収しますが、同調しない紫外線エネルギーは跳ね返すか、遠赤外線に転換させて地上に吸収します。

現在、大量の二酸化炭素放出問題で危惧されるのが、このオゾン層が崩壊し希薄になったり、オゾンホールが出来て地上により多くの紫外線が注がれ、発癌性が高くなったり、生命体の生存に影響するためです。

地球の環境破壊や汚染によって地球自体から放出される磁気エネルギーも低下し、さらには宇宙の変動によって太陽のエネルギー変化から異常なフレアが吹き上げられたりして、大量のプラスイオンの放出や紫外線の影響によって地上のエネルギーバランスに影響を及ぼすことも懸念されます。

こうしたことは、気候変動や天変地変にも大きく影響します。

■さてそれでは、その遠赤外線エネルギーとは何でしょうか？

全ての物質は固有のエネルギーを放射しています。

現在、問題となっているものが原子力問題です。

物質を構成する全ての元素は、原子としてのエネルギー活動をして固有の力を放っています。

最も質量が高く強いエネルギーを放射する物質がウラニウムです。  
ウラニウムからは強い紫外線やガンマ線が放出されます。

これを核融合させ不安定な活性エネルギーに進化させたものが、さらに質量の高くなったプルトニウムであり、原子力利用されるエネルギー体です。  
不安定で強いエネルギーを放射し続けるため、今回のように水での制御が切れた時には瞬時に溶解を起こし、核分裂して 多くの放射性物質となって放出されます。

では何故これ等の放射性物質や放射線が人体に危険なのでしょう。

■この紫外線やガンマ線などの対極に存在するのが生命エネルギーであり、育成光線とめ言われる【遠赤外線】なのです。

宇宙空間を構成する大本の元素が国生神話で【天之御中主神】と言われる水素元素です。

水素元素は核を持たず陽子一つと電子一つの熱も光も持たない存在のため宇宙空間は冷たい暗黒の世界です。

静かに回転する宇宙空間の中でこの水素元素が核融合しながら次々と新しい元素になって行きます。

この新しい元素が生まれることを【成りませる神】と言います。

新しい元素の誕生を【神々の誕生】と言い、五代までは姿を現さない只のエネルギー体であることから五番目の元素までを【隠れ身の神】と言い、五番目のホウ素のことを【天常立之神】と言います。

つまり、天にあって地上に姿を現さない存在であると表現したのです。

次に誕生した原子番号六番目の元素が炭素元素です

そして、始めに地上に姿を表したことから【現れ身の神】と言い、【国常立之神】と呼んだのです。

この段階で物質化が始まり、二酸化ケイ素の岩石や鉄などの金属元素、そして最後に生まれたのが【火之神】と呼ばれたウラニウム元素のことであり、こうして、九二の元素が生まれ地球が完成したことから、これを【クニ(国)生み神話】と言います。



この【火之神】に人類が手を付けて、やがて核戦争へと発展して滅亡した人類の繁栄と終末の歴史があります。

■さて、この炭素元素こそ我々人類と動植物等の有機生命体を作り出した元素であり、この炭素元素のソフトなエネルギーの波長を【遠赤外線】と呼びます。この炭素元素は色々な元素を結びつけて複雑な有機生命体を作り出す貴重な存在です。炭素の単体で構成される物質が最も硬い物質と言われるダイヤモンドや、炭素の炭です。

炭素から窒素に発展し、さらに融合され【酸素元素】が誕生します。

この酸素元素もやはり遠赤外線の波長を持つエネルギー体です。

つまり、人体は宇宙空間を構成する大本の水素元素が 49,7%と炭素元素と酸素元素が其々24,9%の合わせて 99, 5%で構成され、多くの地上のミネラル元素 0, 5%という微妙なバランスで造られています。

非常に精密な構造と機能を持たせるために、ほとんど大気中の元素で【神】は人間の肉体を創ったのです。

人間の作るロボットのように金属で作れば放射能やウイルスや病気の心配も要りませんが、巨大化して繊細さに欠けたものになります。

さて、水素と炭素と酸素で作られた肉体は、水素と酸素を合わせると約 75%の水分となります。

また、原子番号 1 と 6 と 8 で構成されることから人間や動植物等の自然界の世界を 168(いろは)の波動の世界とも言います。

■炭素と酸素は全く違う性質を持つ元素です。炭素は電気エネルギーに反応し電氣的性質を持ち、酸素は磁性を持ち磁気エネルギーに反応します。従って、炭素元素の波動を陽性の遠赤外線、酸素元素の波動を陰性の遠赤外線と仮定して使っています。

つまり、常に生命は陰陽二元の働きで構成され生命活動が行われています。

しかし、生命元素でありながら結合しあって一酸化炭素や二酸化炭素となると、生命にとって非常に危険物質となり、人間が疲労したり老化したりするときは、体は酸化して行きます。

鉄などが酸化することを錆びると言い、動植物等の有機物が酸化することを腐ると言います。

つまり、酸化を防ぐことが病気や老化を防ぐことになります。

そして、酸化を防ぐ力が遠赤外線の仕事でもあります。

遠赤外線のエネルギーが人間の体温であり、遠赤外線の放出が低下すると体温が下がり、免疫力や生命力が低下し身体機能や精神面に影響が出ます。

逆に遠赤外線の波動が上がると体温が正常になり、体は健康で元気になり若返ります。

■また、紫外線や放射線や電磁波や化学物質が人体に多大な危険を及ぼすのは、人体を構成する質量の軽い炭素や酸素の遠赤外線エネルギーが非常にソフトで他の質量の高い物質の持つエネルギーに影響を受けやすいためです。

従って、化学物質や酸化する大気汚染や電磁波環境によって、生活環境から人体を支え活動させる遠赤外線生命エネルギーが枯渇して行くことから、現在の日本人の癌や病気や精神障害の原因となっています。

一方、山や森の中に入ると人体や生活環境における遠赤外線量より遥かに大きな遠赤外線が樹木や大地から放出されているため、体が楽になり元気になります。

■健康エネルギーシステムとして世界の特許を取得した【生体活性化システム】とは、この樹木をさらに炭に変えて陽性の遠赤外線のエネルギーを強化させ、陰性の遠赤外線エネルギーの高く、酸素量が多い岩石(天然セラミックス)を使って、生活環境を改善強化したり、人体の遠赤外線量を高めて体温を上げたりして免疫力や生命力を向上させて、健康回復や人生を豊かにさせるためのシステムなのです。